

「神様の愛を知る勉強」

皆さん、こんにちは。今日は「神様の愛を知る勉強」という題目で説教を致します。

勉強とは何か

皆さん、日々学校に通って勉強に取り組んでいることと思います。学校生活の大半の時間は授業を受ける時間だと思います。国語、数学、英語、理科、社会、色々な科目がありますが、皆さん、勉強は好きですか？どの科目が一番好きですか？今日は、勉強についてお話ししたいと思います。

それではまず、勉強とはそもそも何でしょうか？私達はなぜ勉強しなければならないのでしょうか？中間試験、期末試験、そういう時期がやってくると「なぜこんなに頑張らなくちゃいけないんだ」また、「これが将来どんな役に立つんだ」と、憂鬱な気分になる人もいるかもしれません。確かに、数学で学ぶ微分、積分など、将来使うことがあるか、と言われれば、そういう研究職などに就かない限りは、ほとんど使う場面はないかもしれません。なぜそういうものを勉強する必要があるのでしょうか。勉強とは私達にとって何なのでしょう。

結論から言うと、勉強とは自然万物世界を知り、研究することです。勉強の科目一つ一つが、自然万物を研究している人間の努力なのです。

自然万物を研究する勉強科目

国語や英語は、言葉という万物を研究しています。言葉という万物をよく学び、よく主管することができれば、人に意見をしっかりと伝えることができたり、世界の人と意思疎通することができるようになります。

数学はどうでしょうか。数学はこの世の中の法則を研究することです。1と1を足せば2になる、というところから始まり、図形の法則、比例・反比例などの現象の法則を研究することで、この世の中がどのような法則で成り立っているのかを知ることができます。

社会は、地理では世界や日本がどのような地域で成り立っているのか、歴史では人類が歩んで来た軌跡やその法則性、公民では社会や経済の仕組みを知ることができます。

理科は正に、自然界を研究する科目です。生物では生き物の生態を研究し、気候や天気や地球環境を研究します。また物理はこの世の中のあらゆる現象を科学する学問です。この高さからこの角度で何を投げれば、何メートル先に落ちて何センチバウンドするのか、というような現象を数式で表すことができるのが物理です。普通は実際にやってみなければ分からないことが、理論上、計算の中で分かることができます。

このように考えると、無機質のように思える勉強も、一つ一つ凄いことを学び身につけているのだと感じられるのではないのでしょうか。

自然万物は神様の愛

それでは、勉強が自然万物を研究するものだということで、自然万物について考えてみたいと思います。自然万物は、神様を信じない無神論者からすれば「偶然にできたものだ」といいます。しかし、本当にそうでしょうか。夕日の沈む海を眺める時、小鳥のさえずる木々の木漏れ日を見上げる時、森林と湖の大自然の景色を目の前にした時、満点の星空を見上げる時、人は何かを感じずにはいられません。大きな感動と癒しに包まれて、心が満たされていく感覚を覚えることと思います。

自然万物は、神様が我が子である人間のために創造した、正に神様の愛の表現物であり、神様の愛の証拠品なのです。お父様のみ言にこのようにあります。

聖書では、神様は全知全能なので、言葉一つで、「このような天地になれ」と言ってそうなったとあります。しかし、そのようにはなっていないのです。神様は、あらゆるものを投入したということです。もっている力をすべて投入しました。もっている愛の力をすべて投入して、未来に、御自身の愛する息子、娘、御自身の愛する家庭のための贈り物として万物を造ったということです。

(『天聖經』 p.82～84)

聖書の創造の過程を見ると、神様が「光あれ」と言うとそのようになったというように、まるで神様が魔法でも使ってたった6日間で簡単に創られたかのような印象を受けます。しかしそうではなく、神様は全力を投入して長い長い歳月をかけて創造をされたのです。聖書には、神様は創造の7日目に休まれたとありますが、実際には神様は全力を使い果たして立ち上がることができなかったのです。それは神様の心の中に、いつも我が子を喜ばせたい、という人間への愛が溢れていたからこそ、そのように投入されたのです。なので、自然万物一つ一つには、神様の私達に対する愛が詰まっているのです。

神様の心を表現したと言われる詩・『神様の心』には、次のような言葉あります。

この道傍の石ころ一つにも私の思いをこめたのだよ。
生まれて来るお前の姿を偲びながら心を込めて創ったのだ。
石ころに耳を寄せれば聞こえてくるだろう「愛しい 愛しい」って。
それは創造の時の熱きほとばしりの叫びだよ。

(『神様の心』より抜粋)

ニュートンと友人

ここで一つ、おもしろいエピソードを紹介します。アイザック・ニュートンという人のエピソードです。

ニュートンと言えば、りんごが木から落ちるのを見て万有引力の法則を発見したことで有名です。実はニュートンは熱心なクリスチャンでした。それで、神様を信じない無神論者の友

人に神様の存在を証明しようとして、あることをしたのです。

ニュートンの友達で無神論者の科学者がニュートンの家に訪ねてきました。そこには、太陽と惑星と地球と月の精巧なモデルがあり、月を回すと地球が自転し、太陽の周りを公転するといった精巧なモデルでした。

無神論者の友人：「おいニュートン、これは立派な宇宙のモデルだな、一体誰がこんなすごいものを作ったのだい？」

ニュートン：「誰でもないさ」

無神論者の友人：「おいおい、誰でもないって冗談はよしてくれ、こんな立派なものが勝手にできたとしてもいうのかい？ そんなことは有り得ない、誰かが作ったに決まっている」

ニュートン：「おやおや、おかしいことをいう。君は常日頃から、こんなモデルなど及びもつかないほど精巧で複雑な宇宙が、何人にもよらず偶然の産物によってできたのだと主張しているではないか？ それなのに本当の宇宙に比べれば、はるかに単純ではるかに小さなこのモデルが偶然にできることはあり得ないというのかい？ この矛盾をどう説明するつもりかね。」

無神論者の友人：「……………」

ニュートンは、神様が創造したこの宇宙世界の精巧さを持って、神様の存在を証明しようとしたのでした。

勉強は神様の存在と愛を知る手段

お父様は次のように語っていらっしゃいます。

ちっぽけな砂粒一つにも世の中の道理が入っており、空気中に浮かぶ埃一つにも広大無辺な宇宙の調和が入っています。私たちの周りに存在するすべてのものは、想像もできないほどの複合的な力が結びついて生まれているのです。また、その力は密接に関連して相互につながっています。大宇宙のあらゆる存在物は、一つとして神の心情の外で生まれたものではありません。木の葉一枚揺れることにも宇宙の息遣いが宿っています。

（中略）

神が創造された万物は神ご自身を表す象徴的な存在であり、人は神に似た実体的な存在です。万物を愛することのできる人だけが神を愛することができます。

（『平和を愛する世界人として』 p.51～52）

結論を言うと、自然万物は神様が全精力を投入して創造された私達人間への愛であり、その自然万物を勉強を通して研究することで、神様の存在と愛を知ることができるようになる、

ということです。勉強は、神様の存在と愛を知る手段と言えるのです。勉強が好きではない、苦手だという人は、ぜひ「神様がどんな思いで私のためにこの自然万物を創造してくださったのだろう」という思いで勉強してみてください。そうすると、きっと神様を中心とする勉強のおもしろさを発見することができるでしょう。

それでは、実際に神様のために、という心情を持って勉強してみた成和学生の声を集めましたので、いくつか紹介したいと思います。

《成和学生の声》

勉強している時に、自然の音が聞こえてきて、周りには多くの万物があることに気づきました。桜の花びらの枚数も、数学の＋と－も、英語の主語と動詞も、神様の創造物には意味があることを知りました。神様の愛の表現である万物に囲まれて勉強していることを知った時、すごく勉強が楽しくなり、好きになりました。勉強をさせて頂いていることに感謝です。
(高 3/男子)

今までの私は本当に勉強することが嫌いで、実際あまり勉強をしていませんでした。それで神様のために勉強してみて、「動機が違うとここまで本気でできるものなのか」ととても驚きました。サタンに誘惑されることもあるけれど、祈祷したり真の父母様のお写真を見たりすることで乗り越えることができます。(中 3 女子)

雑念が入ってくる時に真の父母様のお写真を見るようにすると、いつもの勉強が 180 度変わりました。普段は自分の欲求に従い、やめたくなったら一旦やめてしまう勉強でしたが、もはや私の勉強したいとか勉強したくないという思いに関係なく、神様と真の父母様の正しい主管を受けて勉強することができるようになりました。(高 3/男子)

神様のため、誰かのために勉強すると辛くないんだということが分かりました。そうするとワクワクしてきました。今、自分が勉強すれば誰かのことを笑顔にできるんだという気持ちです。(高 3/女子)

神様と共にする勉強

皆さん、勉強する時、神様と関係なくなってしまうのではなく、ぜひ神様の愛を中心として、神様のために勉強する成和学生となりましょう。そのために、神様と共にする勉強の方法を、共有したいと思います。

第一は、勉強を始める時と終わる時にお祈りしましょう。学校で授業を受ける時も、授業の始まりと終わりに一言でも良いのでお祈りしてみてください。「天の父母様、真の父母様、これから英語の勉強を始めます。天の父母様を中心とする世界の兄弟姉妹たちと会話することができる私になっていけるように頑張りますので、どうぞよく学ぶことができるようこの時間をお守りください。」と。終わる時には、「天の父母様、真の父母様、この時間の勉強ありがとうございました。良く集中することができました。感謝します。(もしくは、少し眠

くなって集中できませんでした。すみませんでした。) これから休憩を取ります。次の時間も頑張ります。」というようにお祈りしてみましょう。

第二は、真の父母様のお写真を机の上に置きましょう。真の父母様の小さなお写真でも、成和手帳の中のお写真でも構いません。机の上のすぐ見えるところに立てておくようにしてください。そして先程の成和学生の声のように、集中力が切れそうな時、眠くなった時などに、真の父母様のお写真を見るようにすると、真の父母様から力をもらうことができます。

笑顔のお写真、力強いお写真など、自分の好きな真の父母様のお写真を準備すると更に良いと思います。

第三は、み言を持って勉強しましょう。机の上にみ言の本を置いて、勉強を始める前に意識して臨みたいみ言を読んでから始めると良いです。また、勉強中も辛くなった時にパッと手に取ってみ言を読むと、神様からの言葉をもらってまた歩み始めることができます。『御旨の道』や『こころの四季』などが短く読みやすくお勧めです。

これらの3つをしっかりしながら勉強することができれば、必ず神様と共にする充実した勉強時間になると思います。そしてそれを1回2回ではなく習慣にしていくことができれば、勉強が楽しくなってきて、結果的に成績も上げていくことができると思います。成和学生の皆さん、ぜひ神様と共にする勉強、頑張りましょう！

それでは、最後に、お父様がどのように勉強しておられたのか、そのみ言を訓読して、説教を終えたいと思います。

私が勉強するのも、世界のためです。私は自分のために勉強はしませんでした。世界を活かすためにという考えをもって勉強したのです。それで、先生は大学を立てようとしているのです。私がしていることはすべて、自分のためではなく、国のため、世界のために、神様のためにすると思わなければなりません。勉強する時も同じです。先生は、本の一ページを何カ月も研究し、一つの題目をもって何カ月も深刻に打ち込んだこともあるのです。重要な人生の根本問題、実存問題をおいてそのようにしたのです。

(『真の父母様の生涯路程①』 p.191～194)

今日は、「神様の愛を知る勉強」という題目で説教を致しました。以上で説教を終わります。ありがとうございました。